

令和7年度 教科研修会 I 技術・家庭科（家庭分野） 授業の様子

題 材 名	磯野家建て替えプラン		
授 業 学 級	2年E組（40名）	授 業 者	六浦 悠希
教 科 の 学 び	住生活×家族・家庭生活、安全・快適、時間軸の視点、生活の課題発見		

【本時の様子】

生徒は、磯野家が住みやすい住居にするためにはどうすればよいか考えるために、磯野家の住居の課題をどのように改善したのかに着目して、互いの建て替えプランにアドバイスしました。

トイレと玄関やキッチンとダイニングの距離が遠いため家の中での移動距離が長くなってしまったという課題に対して、部屋の配置を変えたり2階建てにしたりして改善した生徒は、友からアドバイスをもらう中で、いくら距離が近くても階段を昇り降りする必要があると、家族が年を重ねた時に不便になってしまうのではないかと考えていました。

授業の後半では、参考になったアドバイスを全体共有することを通して、磯野家が住みやすい住居にするためには、「住まいの工夫」「文化」「変化する将来の生活」「安全」といった観点や「それぞれの家族」の視点から考える必要があることに気付くことができました。新たに獲得した観点と視点を基に、「幼い子どもの安全や将来の生活を考えていなかった。また、この家に20年以上住むことを考え、高齢になった家族が安全に過ごせるよう生活に必要な部屋の配置を変えたり、階段に手すりを設置したりする必要がある。」といった、新たな課題を設定することができました。

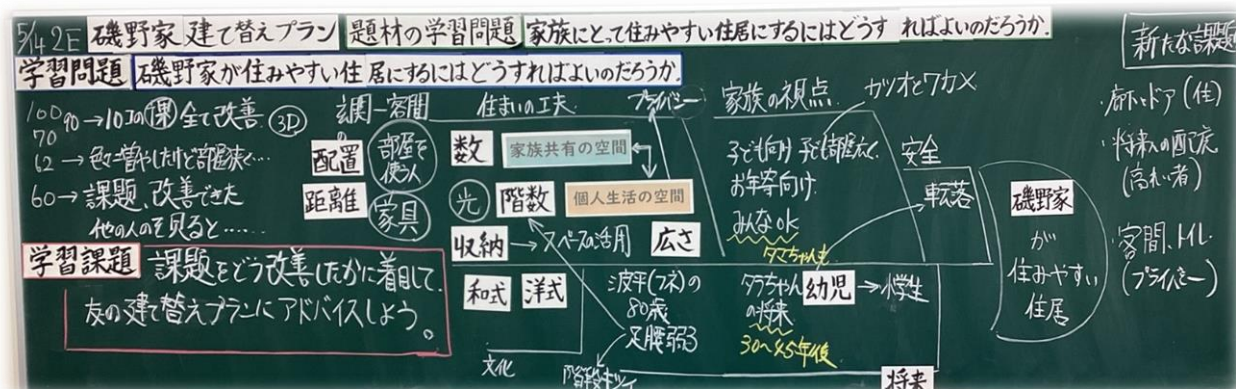
次時は、高齢になる家族にとって和式と洋式の部屋はどちらの方が住みやすいのか、高齢者疑似体験を通して追究していきます。果たして、磯野家みんなにとって将来にわたって住みやすい住居に建て替えることができるのでしょうか。



生徒に寄り添う教師



班でアドバイスし合う生徒（グループ追究）



本時の板書